

穴粟の地名の起こり

穴粟市の名前は、今や難読地名の代表としてその知名度を上げつつある。そこで今回は、穴粟の地名の起こりについてあらためて考えることにしたい。

なお、現在の読みは「しろう」であるが、10世紀前半に成立した『和名類聚抄』には、「穴栗志佐波」とあり、少なくとも平安時代以前は、「しさは」と発音されていたようである。和銅6年(713)の官命後、間もなく編さんされた『播磨国風土記』の穴栗郡の条の冒頭には、郡名の由来が記されている。大意を記せば、次のようである。

「穴栗と名づける理由は、伊和大神が国を作り固め終えられた後に、川・谷・尾を境に定めるために巡られた時、大きな鹿が自分の舌を出しているのに矢田村で遇われた。そこで仰せられ

るには、「矢はその舌にある」といわれた。故に穴栗の郡と名づけ、村の名は矢田村と名づけたのである。」

ここでは、「鹿に遇う」から、「し・あわ」、さらに「しさわ」の由来を導こうとしているように思われる。説話とはいえ、いささか無理なこじつけの感がないでもない。この記事では、奈良時代には穴栗と表記する場合があったこと、すでに郡名の由来が不分明になっていた可能性があることを確認しておきたい。続く比治里の条には、孝徳天皇(在位645〜654)の時代に揖保郡を分けて穴栗郡を作ったとあり、これについてはほぼ史実を反映しているものとみられる。

穴粟の語源については、実は諸説があつて必ずしも定

まっているわけではない。地名の読みや漢字表記は、時代や資料によって異なることも多い。奈良県の飛鳥池遺跡や平城宮跡から出土した木簡には、「穴栗・穴栗・積蟠」の表記が認められる。

ちなみに漢和辞典類によると、「穴」は「肉」と同意で、転じて鹿・猪などの獣類を示す。「栗」は「あわ・いね」などの穀物の総称で、「栗」はもとより「あわ」である。いずれも穴粟の自然環境や特産物を示し、豊かな土地を象徴する用字と理解しておきたい。

地名は、その土地の成り立ちや歴史文化を表す表札の役割を担っている。1300年以上の歴史を持つ穴粟という地名に誇りと愛着を持って、大切に守り伝えて行きたいものである。

一宮生涯学習事務所 田路 正幸



飛鳥池遺跡出土木簡
〔播磨国穴栗郡三方里
神人時万呂五斗〕
平城宮跡出土木簡
〔播磨国穴栗郡三方里
大豆五斗〕

(奈良文化財研究所提供)

おいでよ 図書館へ



穴栗市立図書館 ☎62-4620
山崎町鹿沢 81

夏休み子ども工作教室

8月3日(土)

時間：午前9:00〜11:00
対象：小学校3年生〜6年生
定員：20人

南極ペンギンの家族を折り紙でつくります。申し込みは図書館へ。



今月のオススメ

スノーケリングテクニクガイド
初心者から上級者まで、
楽しく学べて役に立つ！
著者/長谷川 幸一 写真/小川 保

魚に囲まれる水中散歩や、サンゴ礁・岩場に生息する生物たちの観察など、大人も子どもも楽しめるスノーケリング。呼吸法や浮き方から説明してあります。



木村さんのリンゴ

自然栽培に成功した奇跡のひみつ
著者/小原田 泰久

不可能と言われていた無肥料・無農薬のリンゴ栽培を世界で初めて成功させた木村秋則さん。独自の発想で切り開いた、長い苦闘の道をたどります。

図書館カレンダー

☐ 休館日
〔開館時間〕 午前10時〜午後5時30分

日	月	火	水	木	金	土
						12 13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

編集後記

穴栗市誕生から8年と4か月、広報しろうも今月で100号を迎えました。この記念すべき「100号特集」皆さんいかがでしたか？ まだまだ浅い歴史ですが穴栗市の歩みを振り返り、市の歴史と魅力を感じ取っていただけたのではないのでしょうか。

そして、100号特集「しろうの100選」では、さまざまな100選をご紹介します。紙面だけでは紹介しきれないすばらしい場所が他にもたくさんあります。これから夏本番、涼を求め出かけてみませんか。あなただけの「しろうの100選」がきっと見つかるはずです。

石